

## 会報

### 日本食品化学学会 第2回編集委員会（書面）議事録

日 時： 2022年10月17日～10月26日

審議事項： オンライン投稿システム Editorial Manager<sup>®</sup> 導入に伴う投稿規定の一部改正に関する件

- 編集委員会（Eメール書面）において、改正案に対する賛成・反対・一部修正後賛成の三択にて投票を行いました。
- 一部の委員から、「I-1 学会誌投稿等の原則」に照らして「オンライン投稿であっても表紙に自署が必要である」とのご意見があったため、修正して再投票を行いました。
- 改正案に対して賛成が過半数を十分に超えていることにより、本案が可決されました。

以上

## 日本食品化学学会編集委員会からのお知らせ

### オンライン投稿の運用開始

2022年度第2回理事会にて、投稿・査読のオンライン化が可決・承認されたことにより、2022年11月1日からオンライン投稿査読システム・Editorial Manager<sup>®</sup>の運用を開始いたしました。つきましては移行期間として、2023年6月までは従来の郵送による方法も受け付けますが、2023年7月からはオンライン投稿のみの受付となりますので、ご注意ください。投稿方法の詳細は投稿規定（2022年11月 改正）をご確認ください。

- 郵送による投稿：2023年6月30日まで受付

宛先 〒142-8501  
東京都品川区荏原2-4-41  
星薬科大学薬学部 薬品分析化学研究室内  
日本食品化学学会編集委員会  
TEL: 03-5498-5465 E-mail: jpnjfcs@gmail.com

- Editorial Manager<sup>®</sup>による投稿：2023年11月1日から受付

オンライン投稿サイト <https://www.editorialmanager.com/jjfcs/>

投稿される方は本システムに「ユーザ登録」の上、ご利用ください。  
詳しくは上記サイトにあります「投稿者マニュアル」をご参照ください。

ご不明な点がございましたら、編集委員会事務局までお問合せください。

お問合せ：編集委員会事務局 [jpnjfcs@gmail.com](mailto:jpnjfcs@gmail.com)

## 第 50 回日本毒性学会学術年会

会 期： 2023 年 6 月 19 日（月）～ 6 月 21 日（水）

会 場： パシフィコ横浜 会議センター  
〒 220-0012 神奈川県横浜市西区みなとみらい 1-1-1  
URL： <https://www.pacifico.co.jp>

年 会 長： 北嶋 聡（国立医薬品食品衛生研究所 安全性生物試験研究センター 毒性部）

テ ー マ： 「毒性学ってナンだ？ -そしてその先へ-」

### 参加登録と演題登録：

学術年会ホームページからのオンライン登録となります。

詳細についてはホームページをご覧ください。

・ 演 題 登 録：2023 年上旬（予定）～

・ 事前参加登録：2023 年上旬（予定）～

特別企画： 年会長招待講演、特別講演、教育講演、シンポジウム、ワークショップ、キャリア形成支援プログラム、市民公開セミナーを予定しております。

年会事務局 〒 210-9501 川崎市川崎区殿町 3-25-26  
国立医薬品食品衛生研究所  
安全性生物試験研究センター・毒性部  
相崎健一、小野竜一、棗形麻樹子、高橋祐次  
e-mail: [secretariat@jsot2023.jp](mailto:secretariat@jsot2023.jp)  
50 回記念担当：  
務台 衛（(株) LSIM 安全科学研究所）

連絡事務局 〒 106-0041 東京都港区麻布台 1-11-9  
株式会社コンベックス内  
e-mail: [jsot2023@convex.co.jp](mailto:jsot2023@convex.co.jp)

年会ホームページ：  
<https://jsot2023.jp/>

## 第 39 回日本毒性病理学会総会及び学術集会

日本毒性病理学会は、毒性病理学の進化や発展を目的として設立され、これまでに多くの研究成果を生み出し、学術的にも社会的にも貢献して参りました。近年では、新規モダリティに対応した病理評価法の開発のみならず、イメージングや空間的遺伝子発現解析技術を取り入れた毒性作用機序の解明やゲノム編集技術を利用したヒト外挿性向上への挑戦など、新たな領域での発展が期待されております。本学術集会におきましては、「毒性病理学の挑戦 - 伝統の継承と次代を見据える技術革新 -」をテーマとして掲げ、長年培われてきた毒性病理学の伝統の継承に関する取り組みと共に、これからの毒性病理学を担うことが期待される新技術や、伝統を踏まえて進化するリスク評価の取り組みなどを紹介し、創造性のある学術分野への発展に貢献することを目指しております。

本学術集会におきましては、学会員に日ごろの研究成果を積極的に発表していただき、様々な研究者との垣根を越えた活発な意見交換の場を提供できることを願っております。協賛学会会員の皆様におかれましても積極的なご参加を心よりお待ちしております。

会 期	2023 年（令和 5 年） 1 月 25 日（水）、26 日（木）
会 場	タワーホール船堀の現地と WEB 配信のハイブリッド開催
年 会 長	渋谷 淳（東京農工大学大学院 農学研究院）
テ ー マ	毒性病理学の挑戦 - 伝統の継承と次代を見据える技術革新 -
主 催 機 関	一般社団法人日本毒性病理学会
学術集会 HP	<a href="https://cfmeeting.com/jstp39/">https://cfmeeting.com/jstp39/</a>

### プログラム内容（予定）

特別講演（2 題）、基調講演（2 題）、シンポジウム、IATP Maronpot Guest Lecture、パネルディスカッション（2 セッション）、若手ワークショップ（2 セッション）、一般演題（ポスター）、ランチョンセミナー、イブニングセミナー

一般演題募集 2022 年 9 月 1 日（木）14:00 ~ 10 月 21 日（金）16:00

事前参加登録 2022 年 9 月 1 日（木）14:00 ~ 12 月 9 日（金）17:00

### 協賛学会会員の参加登録費

事前登録 11,000 円（税込）  
当日受付 13,200 円（税込）

学 会 事 務 局 東京農工大学農学部・共同獣医学科 獣医病理学研究室（担当：植野）  
事務局長：村上智亮（獣医毒性学研究室）  
〒183-8509 東京都府中市幸町 3-5-8  
Tel: 042-367-5771 Fax: 042-367-5771  
E-mail: [jstp2023@gmail.com](mailto:jstp2023@gmail.com)

運 営 事 務 局 株式会社コンベンションアシスト（担当：大川）  
〒352-0011 埼玉県新座市野火止 7-8-31  
Tel: 048-400-2790（携帯）080-3206-2671  
E-mail: [jstp39@cfmeeting.com](mailto:jstp39@cfmeeting.com)

## 公益財団法人 日本食品化学研究振興財団 令和5年度 研究等助成募集のお知らせ

食品化学に関する研究の助成等を通じて食品の安全性の確保を図り、国民の健康の保持・増進に寄与することを目的として、下記により研究等の助成募集を行います。

（詳細は募集要項参照のこと）

### I 研究助成

#### 1. 助成対象

##### (1) 一般研究助成

- ①食品添加物に関する調査・研究
- ②その他の食品化学領域における調査・研究

##### (2) 課題研究助成

- ①食品添加物の体内動態および生体に対する影響に関する研究
- ②食品添加物を利用した食品および食品素材の保存・安定性向上に関する研究
- ③各種精油、果汁、果実等の天然香料の基原動植物および食品に含まれるフレーバー成分の化学的研究
- ④高齢者・病者・障害者等のための食品添加物を利用した食品・食品成分補給方法の開発研究
- ⑤各国における食品添加物規制の実際と比較に関する調査、研究
- ⑥食品化学分野における代替タンパク質（Alternative Protein）の特性、機能、安全性等の研究

#### 2. 助成金額 1件 50～150万円程度

なお、令和4年度の助成件数は15件でした。

### II シンポジウム等開催助成（前期）

- 1. 助成対象 令和5年4月1日から令和5年9月30日までの間に開催される食品化学に関するシンポジウム等
- 2. 助成金額 1件 15～50万円程度

### III 応募資格 本邦の大学、研究機関等において研究活動等に従事している者

### IV 募集期間 令和4年11月15日（火）～令和5年1月16日（月）（必着）

### V 募集要項及び申請用紙の入手

ホームページより入手願います。 <https://www.ffcr.or.jp>

公益財団法人 日本食品化学研究振興財団  
〒561-0828 大阪府豊中市三和町1-1-11  
電話番号 06-6333-5680 e-mail: admin@ffcr.or.jp

## 公益財団法人 日本食品化学研究振興財団 令和4年度後期シンポジウム開催等助成決定について

公益財団法人 日本食品化学研究振興財団（理事長 清水 康弘）は、次のとおり令和4年度後期シンポジウム開催等助成金交付対象者を決定しましたのでお知らせします。

令和4年度後期シンポジウム開催等助成件数および金額

3件 計 105万円

助成金交付対象シンポジウム等

1. 日本食品化学学会 第38回食品化学シンポジウム  
テーマ：「レギュラトリーサイエンスと食品安全教育の現状と今後」
2. 日本食品衛生学会 第118回学術講演会
3. 第22回国際栄養学会議  
22nd International Union of Nutritional Sciences  
(22nd IUNS-ICN)

## 謝辞

本誌第 29 卷への論文の掲載にあたりましては、下記の諸先生方に査読委員としてご協力をいただきました。厚く御礼申し上げます。(敬称略)

青木 恭彦	赤澤 隆志	阿部 裕	阿部 善也	石橋 弘志	伊藤 智広	井之上浩一
上田 泰人	内山奈穂子	大槻 崇	小木曾加奈	尾崎 麻子	片山 茂	解良 康太
栗谷 健志	白杉 直子	澤邊 昭義	白畑 辰弥	杉本 直樹	島村 裕子	鈴木彌生子
鳥羽真由子	建部 千絵	田村 倫子	堤 智昭	内匠 正太	鍋師 裕美	永山 敏廣
西崎 雄三	二宮 清文	中村 晴信	細谷 孝博	堀江 正一	藤原 孝之	平原 嘉親
森山 達哉	松尾 洋孝	三宅 義明	増本 直子	良永 裕子	安田 和男	渡辺 純

日本食品化学学会誌編集委員会

## 日本食品化学学会誌投稿規定

(2022年11月改正)

日本食品化学学会誌 (Japanese Journal of Food Chemistry and Safety, 略名: 日食化誌) —以下“学会誌”は、学会員の食品に関連関与する化学物質の化学、安全、有用性、法律、経済、社会、歴史、行政、統計などに関する研究・調査結果を掲載することを目的とする学術論文誌であります。学会誌は、総説、論文、ノート、資料などの他、学会連絡事項等を掲載します。学会員の投稿原稿は複数の査読者の意見を基に編集委員が評価し、その採否等は編集委員会 (以下、委員会) が行います。

学会誌には食品添加物、残留農薬あるいは食品汚染物の調査データであっても学術的価値のあるものは論文として掲載します。ただし、その際、調査数が少なかったり、系統だった調査が行われていない場合には返却またはノート扱いとする場合があります。また、動物実験のネガティブデータも掲載しますが、投与量や実験方法等が不適当なものはお断りする場合があります。

### I 学会誌投稿等の原則

- 1 会則第9条3項に基づき、学会誌へ投稿する者の筆頭著者並びに責任著者は学会員 (個人会員及び法人会員を所属名とする者) である必要があります。ただし、委員会が依頼した原稿は除きます。  
責任著者 (Corresponding author) は、連絡者として「投稿原稿の表紙」を記載し、論文の代表者として、研究が日本食品化学学会倫理規定に従って行われていることを確約する署名を行います。責任著者は、和文論文の場合、論文1ページ目の欄外に、責任著者 (連絡先) として日本語で、Corresponding author として英語で、住所と氏名が記載されます。英語論文の場合には、1ページ目に Corresponding author として英語で、和文抄録のページに、責任著者 (連絡先) として日本語で、住所と氏名が記載されます。  
なお、論文が複数のグループで行われている場合を鑑み、責任著者は、2名まで認めますが、その場合どちらかが、連絡者兼代表者として、「投稿原稿の表紙」を記載し、代表者署名を行って下さい。オンライン投稿システム Editorial Manager<sup>®</sup> (以下 EM という) を利用して投稿する場合でも、「投稿原稿の表紙」の記載および代表者署名は必要です。
- 2 会誌への投稿は有料とします。ただし委員会が依頼した原稿は除きます。なお、受付の順番を待たず、直近発行の学会誌掲載を希望される場合は、別途その実費を支払っていただきます。
- 3 原稿の種類は下記に示す通りです。論文およびノートは、他の出版物に既に発表、あるいは投稿されていないものに限ります。刷り上がりは本文和文で1ページ2段組みで26字×51行となります。従って1ページ当たり最大2652文字となります。
  - 1) 総説 (Review): 調査・研究論文の総括、解説等。編集委員会が依頼する場合があります。
  - 2) 論文 (Regular article): 科学的研究・調査の報告。
  - 3) ノート (Note): 研究の概略を迅速に発表、または部分的調査・研究の発表。
  - 4) 資料 (Research letter): 調査または統計等をまとめた報告 (その結果を十分に論じたものは総説、論文とします)。学会員に参考となる記録やまとめ、学会員に役立つ行政、判例あるいは海外資料。委員会が提供する場合があります。内容によっては投稿料を求めません。
  - 5) 会員の意見: 食品化学に関する意見、掲載論文に関する意見等。原則として投稿料を求めません。
  - 6) その他: 編集委員会にご相談下さい。
- 4 投稿原稿執筆にあたっては、とくに形式を定めません。要は読み易く、文献として理解しやすい様式および記述をお願いします。ただし、論文のタイトルは、分かり易いものとし、原則として副題は付けないで下さい。また、引用文献の記述には注意して下さい。(II-3) 引用文献参照)
- 5 論文の投稿は、和文でも英文でも構いません。図表も同様です。投稿原稿には英文抄録を原稿として付して下さい。また、英文論文の場合は、英文抄録の和文も別途添付して下さい。抄録は、一般学術雑誌の例で作成されて構いません。しかし本誌では英文投稿の場合、和文で会員が目を通すのに十分容易なように、また和文投稿ながら外国から文献請求があると予想される英文抄録の場合、これら抄録はより詳しく本文の主要図表も引用し、1~2頁分を使用しても構いません。



- 6 和文論文への英文抄録には、日本語訳を付けて下さい。ただし訳文の掲載は致しません。
- 7 投稿原稿には別に示す表紙を A4 版(縦)の大きさをコピーして、所定事項を記入の上、本文用と抄録用それぞれの原稿の表紙として付して下さい。所定事項をワープロで作成したものを表紙として使用しても結構です。EM を利用して投稿する場合は、表紙に所定事項を記入の上、PDF にしてアップロードしてください。
- 8 掲載に際し、軽微な修正は委員会の判断にご一任下さい。もし投稿原稿の意を害した場合、その旨を寄せていただければ次号に掲載します。
- 9 注意：二重投稿などの不正が疑われた場合には日本食品化学学会誌倫理調査委員会規則に則った調査が行なわれ、その結果に基づき日本食品化学学会倫理規定に従う処分がなされることがあります。

## II 投稿原稿の様式

### 1 原稿の記し方と構成

- 1) 緒言、研究方法、結果など見出しの項には I、II、III…の番号を付して下さい。以下の番号には通例 1、2、3…、1)、2)、3)…、(1)、(2)、(3)…として下さい。
- 2) 文献記述は次のことを守って下さい。  
全文献共、同一形式(II-3) 引用文献参照)に従って、原則として英文記載として下さい。
- 3) キーワードは和文、英文の両方で 5 句以内をお願いします。

### 2 表および図

- 1) 原稿本文中に表、図および写真を挿入する記述箇所、右横に挿入箇所を朱色で明示して下さい。
- 2) 図と写真のタイトルは図および写真の下とします。表のタイトルは表の上とします。なお、図表の下側に本文と併読しなくても理解できる程度に簡単な説明文が記述されていることが望ましいとします。
- 3) 図、表はそのまま製版できるようにプリントまたは墨書してください。なお、印刷に際して、改めてトレースする必要がある図・表については、その実費を請求いたします。
- 4) 図中の文字を活字で表したいときは、活字挿入希望を鉛筆で記して下さい。この場合活字挿入に必要な版下作成の実費は請求いたします。  
写真：硬調にプリントした光沢仕上げのものを 1 枚ずつ A4 版の厚手の上質紙に軽く貼り付けて下さい。必要あれば原稿には希望する縮尺を付記して下さい。カラー印刷等でアート紙の使用が必要な場合は実費を請求致します。
- 5) EM を利用して投稿する場合は、上記 3)、4) の電子データをアップロードして下さい。

### 3 引用文献

- 1) 引用文献は 1)、2) で出現順に示し、最後に一括して番号順に列記する。ibid. や idem は用いない。
- 2) 欧文誌の引用：例①のとおりとする。雑誌名は略記名の定められているもの以外略さない。略記名が不明の場合は、略記せず完全誌名を記述する。

例① Viberg, H., Fredriksson, A., Eriksson, P.: Neonatal exposure to polybrominated diphenyl ether (PBDE 153) disrupts spontaneous behaviour, impairs learning and memory, and decreases hippocampal cholinergic receptors in adult mice. *Toxicol. Appl. Pharmacol.*, **192**, 95-106 (2003).

- 3) 和文誌の引用：誌名は原則としてヘボン式ローマ字書きで記述し、欧文誌名を持つものは、必要があれば丸括弧書きで付記する。正式な欧文誌名のないものは欧文誌名を付けてはならない。また、欧文誌名は、その略記名が定められているときは略記しても良いが、略記名が不明の場合は略記せず完全誌名を記述する。例②を参考にする。なお、英文標題がないものは標題をローマ字書きし、ローマ字のあとに丸括弧に入れて翻訳標題を付記する。

例② Yoshimitsu, M., Hori, S.: Comparison of the DNA extraction methods from potato snacks and detection of genetically modified potato in snacks. *Nippon Shokuhin Kagaku Gakkaishi (Jpn. J. Food Chem.)*, **10**, 165-170 (2003).

- 4) 欧文誌、和文誌とも、巻数を表記しない雑誌では、巻数の位置に年号を太文字で記載する。

- 5) オンラインジャーナルの場合、ページ付けがある場合には、2)-4) に従う。ページ付けが無く論文番号がある場合には、巻号を記載し、その後に論文番号を記載する。
- 例③ Mabon, S. A., Misteli, T. : Differential recruitment of pre-mRNA splicing factors to alternatively spliced transcripts in vivo. *PLoS Biol.*, **3**(11), e374 (2005).
- 6) オンラインで事前公開された論文等で、まだ巻号、ページ、論文番号等が決定していない場合、あるいはこれらのもがない場合には、分かっている情報を記載し、その後に DOI を記載し、引用日について括弧書きで追記する。
- 例④ Xiao, B., Huang, X., Wang, Q., Wu, Y., : Beta-asarone alleviates myocardial ischemia-reperfusion injury by inhibiting inflammatory response and NLRP3 inflammasome mediated pyroptosis. *Biol., Pharm. Bull.*, Article ID: b19-00926, doi:10.1248/bpb.b19-00926 (cited 2020-04-28).
- 7) 欧文単行本の引用：図書の一章又は一部分を引用する場合は例⑤、⑥、全体を引用する場合は例⑦を参考にする。ISBN が判明しているものは記載する。
- 例⑤ Porter, L. J., “The Flavonoids: Advances in research since 1986”, Harborne, J. B. ed., London, Chapman & Hall, 1994, p. 23-53. (ISBN 0-412-48070-0)
- 例⑥ Joint FAO/WHO Expert Committee on Food Additives 55th Session ed., “Compendium of food additive specifications, Addendum 8”, Rome, FAO, 2000, p. 49-50. (ISBN 92-5-104508-9)
- 例⑦ Watson, C. ed., “Official and standardized methods of analysis”, 3rd Ed., London, The Royal Society of Chemistry, 1995.
- 8) 和文単行本の引用：和文単行本を引用する場合、書名は原則としてヘボン式ローマ字書きで記述し、欧文書名を記す必要があれば翻訳し、ローマ字書きのあとに丸括弧に入れて付記する。翻訳本を引用する場合には、必ず著者及び原書名を記述し、翻訳者と翻訳書名を丸括弧に入れて付記する。図書の一章又は一部分を引用する場合は例⑧～⑫、全体を引用する場合は例⑬～⑮を参考にする。ISBN が判明しているものは記載する。ただし、和文原稿において、団体著者、団体編者の場合や、書名がローマ字書きをすると意味がわかりにくくなるものは、和文で記載してもよい。例⑯～⑲を参考にする。
- 例⑧ Shigematsu, Y., “Saishin No Masusupekutorometori (Modern mass spectrometry)”, Niwa, T. ed., Kyoto, Kagaku Dojin, 1995, p. 80-92. (ISBN 4-7598-0282-7)
- 例⑨ Suzuki, I. et al. eds., “Shokuhin Tenkabutsu Koteisho Kaisetsusho, 7th Ed.”, Tokyo, Hirokawa Shoten, 1999, D-661 D-667. (ISBN 4-567-01852-4)
- 例⑩ Ono, H. et al. eds., “Shokuhin Anzensei Jiten”, 1st Ed., Tokyo, Kyoritsu Shuppan, 1998, p. 246. (ISBN 320-06124-1)
- 例⑪ Kudo, I., Inoue, K., “Purosutaguranjin Kenkyuho, Jo-kan (Technique for the study of prostaglandin, volume 1)”, Yamamoto, S., Katori, M. eds., Tokyo, Tokyo Kagaku Dojin, **1986**, p. 47-53. (ISBN 4-8079-1305-0)
- 例⑫ Derome, A. E. (Takeuchi, Y., Nosaka, A. trs.), “Modern NMR techniques for chemical research (Kagakusha No Tameno Saishin NMR Gaisetsu)”, Kyoto, Kagaku Dojin, 1991, p. 185. (ISBN 4-7598-0226-6)
- 例⑬ Ito, Y. ed. (Division of Food Chemistry, Environmental Health Bureau, Ministry of Health and Welfare, Japan supervised), “Nipponjin No Shokuhintenkabutsu 1-Nichi Sesshuryo Jittai Chosa Kenkyu (Studies on daily intake of food additives in Japanese 1976-1985)”, Tokyo, Shakai Hoken Shuppansha, 1988.
- 例⑭ Niwa, T. ed., “Saishin No Masusupekutorometori (Modern mass spectrometry)”, Kyoto, Kagaku Dojin, 1995. (ISBN 4-7598-0282-7)
- 例⑮ Murota, S. ed., “Purosutaguranjin No Seikagaku (Biochemistry of prostaglandins)”, 1st Ed., Tokyo, Tokyo Kagaku Dojin, 1982.
- 例⑯ 厚生省生活衛生局食品化学課 “第 2 版 食品中の食品添加物分析法” 2000, p. 320-322.
- 例⑰ 農業環境保全対策研究会編 “残留農薬基準ハンドブッケー作物・水質残留の分析法” 東京、化学工業日報社、1995, p. 406-410.
- 例⑱ 動物性食品の HACCP 研究班編 (厚生省生活衛生局乳肉衛生課監修) “HACCP: 衛生管理計画の作成と実践データ編” 東京、中央法規出版、1997, p. 148-152.
- 9) 官報、局長通知など  
和文原稿では例⑲、⑳に従い引用する (英文にしない)。英文原稿では、例㉑～㉓を参考に引用する。
- 例⑲ 厚生省令第 50 号 (1995) “既存添加物名簿に関する省令” 平成 7 年 8 月 10 日。

例⑳ 厚生省生活衛生局長通知“食品衛生法に基づく表示について”平成7年10月12日、衛食第186号(1995).

例㉑ Japan's Specifications and Standards for Food Additives, 7th Ed., Ministry of Health and Welfare, Japan (1999).

例㉒ Ordinance No. 50 (Aug. 10, 1995), Ministry of Health and Welfare, Japan.

例㉓ Notification No. 186 (Oct. 12, 1995), Director-General of Environmental Health Bureau, Ministry of Health and Welfare, Japan.

- 10) 和文誌及び研究所報告のローマ字書きと欧文名(丸括弧内)の例を下記に示す。

分析化学: Bunseki Kagaku (なし)

栄養学雑誌: Eiyogaku Zasshi (The Japanese Journal of Nutrition)

医学と生物学: Igaku To Seibutsugaku (Medicine and Biology)

医学のあゆみ: Igaku No Ayumi (Journal of Clinical and Experimental Medicine)

化学と工業: Kagaku To Kogyo (Chemistry and Chemical Industry)

化学: Kagaku (Chemistry), (Kyoto) 化学 (Kyoto) と科学 (Tokyo) を区別するため所在地を記入

日本農芸化学会誌: Nippon Nogeikagaku Kaishi (なし)

応用薬理: Oyo Yakuri (Pharmacometrics)

生化学: Seikagaku (なし)

食品衛生研究: Shokuhin Eisei Kenkyu (Food Sanitation Research)

薬学雑誌: Yakugaku Zasshi (Journal of the Pharmaceutical Society of Japan)

国立医薬品食品衛生研究所報告: Kokuritsu Iyakuhin Shokuhin Eisei Kenkyusho Hokoku (Bulletin of National Institute of Health Sciences)

日本醤油研究所雑誌: Nippon Shoyu Kenkyusho Zasshi (Journal of the Japan Soy Sauce Research Institute)

埼玉県衛生研究所報: Saitamaken Eiseikenkyusho Ho (Annual Report of Saitama Institute of Public Health)

- 11) 私信、講演要旨集(一般講演、シンポジウムなどを含む)、インターネットホームページ、未発表のものは文献として引用しない。ただし脚注に記載することは妨げない。
- 12) 脚注は \*1、\*2、\*3 により表し、出現したページの下部に番号順に列記する。

#### 4 その他の留意事項

- 1) 簡単な化合物名や動植物名は、文部省学術用語審議会編 学術用語集によります。用語集に記載のないものについては、広く学術的に用いられている用語を用いて下さい。ただし、字数の多い化学名、酵素名、外国地名、外国人名、および学術的に欧文の方が理解を得やすい場合は欧文で記載して下さい。
- 2) 動植物名: 片仮名書きとし、学名はイタリック体とします。ただし食品として用いる場合はこの限りではありませんが、動植物、食品名などを学名によらず英語名で図表などで一覧表としてデータと共に示す場合は必ず日本名を( )で併記して下さい。
- 3) その他ゴシック体(太い文字)、イタリック体(斜体) および学名などスモールキャピタルを必要とする場合は、その文字の下に朱書きでそれぞれ ~~~~~、\_\_\_\_\_ および \_\_\_\_\_ を記入して下さい。
- 4) J-Stage に掲載の都合上、外字フォントは使用できません。
- 5) 投稿原稿には、ページ番号に加え行番号を記載する。
- 6) 投稿規程全般について不明な点、特殊な要望のある場合は学会事務局にお問い合わせ下さい。

#### 5 投稿の際の注意

- 1) ヒトを対象にした研究論文は、ヘルシンキ宣言(2008年改訂)の方針に沿い、必要な手続きを踏まえていなければならない。特に臨床サンプルを扱う場合には、原則的に所属機関の倫理委員会などの公的審査会にて認められた研究内容で、同意書等を取得した上で得たデータでなくてはならない。
- 2) 動物を対象にした研究論文は、所属機関で規程される実験動物に関する管理と使用に関するガイドラインに従った旨を明記する。

### III 投稿の方法

- 1 投稿は電子投稿システム Editorial Manager<sup>®</sup> (EM) にて、責任著者が行って下さい。  
責任著者は EM のサイトにてユーザ登録のうえ、アカウントを作成する必要があります。

オンライン投稿サイト

URL: <https://www.editorialmanager.com/jjfcs>

- 2 郵送にて投稿の場合は、封筒に投稿原稿在中と朱書きの上、投稿原稿正 1 部、副 3 部の計 4 部を下記宛先まで送付して下さい (副はコピー可)。投稿原稿は査読の便宜上 A4 用紙 1 ページにつき 40 字×35 行を基本として打ち出して下さい。  
宛先

〒142-8501 東京都品川区荏原 2-4-41  
星薬科大学薬学部薬品分析化学研究室内  
日本食品化学学会編集委員会  
TEL: 03-5498-5765 E-mail: [jpnjfcsgmail.com](mailto:jpnjfcsgmail.com)

- 3 受理決定後、事務局から電子媒体 (CD-R 又は USB 等) による原稿の提供を連絡致しますので、直ちに送付して下さい。この際原稿に意見を付す場合がありますので、電子媒体は修正の上で原稿 (同様修正済み) と共に返送して下さい。電子媒体には使用したソフト、機種等の必要事項を記入した「ラベル」を貼って送付して下さい。EM を利用して投稿する場合も、受理決定後、事務局から電子媒体による原稿の提供を連絡する場合がありますので、その際は直ちに送付して下さい。

### IV 掲載と費用

- 1 校正は初校、必要あれば二校を著者が行います。ただし校正時の加筆をご遠慮下さい。
- 2 掲載された論文については、下に定めた諸経費を請求します。
  - 1) 基準投稿料: 1 編につき個人会員 20,000 円、法人会員および企業 40,000 円
  - 2) 規定頁 (5 頁) を超過した場合は超過費を請求します。超過頁費 (6,000 円/1 頁) は、19 巻 1 号掲載分より実施しています。
  - 3) カラー頁がある場合は実費を請求します。
  - 4) トレース: 実費を請求します。
  - 5) 別刷: 実費を請求します。
  - 6) pdf 作成: 基本作成費 1,000 円プラス 1 頁あたり 1,000 円
  - 7) 上記費用は投稿原稿掲載通知後、明細書により請求します。
- 3 掲載料の納入は原則として郵便振替をご利用下さい。(別刷代を除く)  
郵便振替納入先: 口座 00900-3-233186  
加入者名 日本食品化学学会事務局  
(通信欄に送金内容を記入して下さい。)

### V 付記

- 1 本誌に掲載された論文の著作権は、日本食品化学学会に属します。

## 投稿原稿の表紙

投稿原稿の種類	総説	論文	ノート	資料
投稿原稿の文字	和文	英文		

(提出原稿に対応するものを○で囲んで下さい。)

投稿年月日	西暦	年	月	日
-------	----	---	---	---

論文等の表題（和文及び英文）

著者名及び所属機関名（和文及び英文）

キーワード（和文及び英文）

ワープロの機種及び原稿に関する情報

ワープロの機種等必要事項：

原稿： 枚 図： 枚 表： 枚 写真： 葉

連絡者の住所（和文及び英文）

〒( )

機関名（和文及び英文）

TEL・FAX

TEL

FAX

連絡者の氏名（和文及び英文）

本研究内容は、日本食品化学学会倫理規定に従って行われていることを確約します。

代表者署名 \_\_\_\_\_

連絡者の E-mail

備考・関連事項など

## 日本食品化学学会理事及び監事 (2022年1月1日～2023年12月31日)

理事長	合田 幸広	国立医薬品食品衛生研究所所長
副理事長	良永 裕子	麻布大学 生命・環境科学部教授
副理事長	鰐淵 英機	大阪公立大学大学院医学研究科教授
理事	穂山 浩	星薬科大学薬学部 薬品分析化学研究室教授
理事	伊藤 美千穂	国立医薬品食品衛生研究所生薬部長
理事	井之上 浩一	立命館大学薬学部教授
理事	小川 久美子	国立医薬品食品衛生研究所病理部長
理事	日下部 哲也	独立行政法人医薬品医療機器総合機構 医療機器品質管理・安全対策部長
理事	杉本 直樹	国立医薬品食品衛生研究所食品添加物部長
理事	中江 大	帝京平成大学健康医療スポーツ学部医療スポーツ学科動物医療コース教授
理事	東田 千尋	富山大学和漢医薬学総合研究所教授
理事	船見 孝博	三栄源エフ・エフ・アイ株式会社取締役執行役員事業本部長
理事	松浦 寿喜	武庫川女子大学食物栄養科学部教授
理事	松藤 寛	日本大学生物資源科学部教授
理事	矢野 竹男	三重大学大学院 地域イノベーション学研究科教授
監事	尾崎 麻子	大阪健康安全基盤研究所 衛生化学部主幹研究員
監事	鳥羽 真由子	サントリーホールディングス株式会社グループ品質本部 安全科学センター部長

## 日本食品化学学会編集委員会 (2022年1月1日～2023年12月31日)

編集委員長	穂山 浩	星薬科大学薬学部 薬品分析化学研究室教授
編集委員	石井 里枝	埼玉県衛生研究所副所長
編集委員	一色 賢司	一般財団法人日本食品分析センター学術顧問
編集委員	井之上 浩一	立命館大学薬学部教授
編集委員	小川 雅廣	香川大学農学部応用生物科学科教授
編集委員	小関 良宏	東京農工大学工学部名誉教授
編集委員	片山 茂	信州大学学術研究院 (農学系) バイオメディカル研究所教授
編集委員	川原 信夫	公益財団法人高知県牧野記念財団理事長兼高知県立牧野植物園長
編集委員	魏 民	大阪公立大学大学院医学研究科環境リスク評価学准教授
編集委員	橘田 和美	国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構 本部人事部長兼人材育成室長兼ダイバーシティ推進室長
編集委員	合田 幸広	国立医薬品食品衛生研究所長
編集委員	庄司 俊彦	国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構食品研究部門食品健康機能研究領域食品機能評価ユニット
編集委員	白杉 直子	神戸大学名誉教授
編集委員	杉本 直樹	国立医薬品食品衛生研究所食品添加物部長
編集委員	田口 貴章	国立医薬品食品衛生研究所食品部室長
編集委員	田中 卓二	岐阜市民病院病理診断科部長・病理診断研究センター長
編集委員	田村 倫子	東京農業大学食品安全健康学科准教授
編集委員	辻村 英雄	公益財団法人サントリー生命科学財団理事長
編集委員	手島 玲子	岡山理科大学獣医学部教授
編集委員	中江 大	帝京平成大学健康医療スポーツ学部医療スポーツ学科動物医療コース教授
編集委員	西島 基弘	実践女子大学生活科学部名誉教授
編集委員	林 新茂	東京農工大学農学部客員教授
編集委員	増田 修一	静岡県立大学食品栄養科学部食品衛生学研究室教授
編集委員	松藤 寛	日本大学生物資源科学部食品生命科学科教授
編集委員	水上 元	名古屋市立大学名誉教授
編集委員	三宅 義明	愛知淑徳大学健康医療科学部健康栄養学教授
編集委員	森川 敏生	近畿大学薬学総合研究所教授
編集委員	矢野 竹男	三重大学大学院地域イノベーション学研究科教授
編集委員	吉岡 靖雄	大阪大学微生物病研究所 BIKEN 次世代ワクチン協働研究所特任教授
編集委員	良永 裕子	麻布大学 生命・環境科学部教授

## 複写複製および転載複製をご希望の方へ

本会では複写複製および転載複製に係る著作権を学術著作権協会に委託しています。当該利用をご希望の方は、学術著作権協会 (<https://www.jaacc.org/>) が提供している複製利用許諾システムもしくは転載許諾システムを通じて申請ください。尚、(社) 日本複写権センター (同協会より権利を再委託) と包括複製許諾契約を締結されている企業の社員による社内利用目的の複写はその必要はありません。社外頒布用の複写は許諾が必要です。また、著者や非営利団体に該当する方が転載利用の申請をされる場合には、本会に直接お問い合わせください。

権利委託先: 一般社団法人 学術著作権協会 〒107-0052 東京都港区赤坂 9-6-41 乃木坂ビル 3F

FAX: 03-3475-5619 E-mail: [info@jaacc.jp](mailto:info@jaacc.jp)

著作物の引用、翻訳等に関しては、(社) 学術著作権協会に委託しておりません。直接、日本食品化学学会へお問い合わせください。

## Reprographic Reproduction outside Japan

The Japanese Society of Food Chemistry authorized Japan Academic Association For Copyright Clearance (JAC) to license our reproduction rights and reuse rights of copyrighted works. If you wish to obtain permissions of these rights in the countries or regions outside Japan, please refer to the homepage of JAC (<http://www.jaacc.org/en/>) and confirm appropriate organizations. You may reuse a content for non-commercial use, however please contact us directly to obtain the permission for the reuse content in advance. Obtaining permission to quote, translate, etc., please also contact us directly.

Japan Academic Association for Copyright Clearance (JAACC)

Address: 9-6-41 Akasaka, Minato-ku, Tokyo 107-0052, Japan

Website: <http://www.jaacc.jp/>

E-mail: [info@jaacc.jp](mailto:info@jaacc.jp) FAX: +81-33475-5619

## 日本食品化学学会誌 第29巻第3号

2022年12月28日発行 [定価2000円] (会員無料)

編集兼発行人

日本食品化学学会

事務局 〒525-8577 滋賀県草津市野路東1-1-1

立命館大学薬学部・大学院薬学研究科 臨床分析化学研究室

e-mail: [shokuhinkagaku@jsfcs.org](mailto:shokuhinkagaku@jsfcs.org) ホームページ: <http://www.jsfcs.org/>

印刷所

〒541-0059 大阪市中央区博労町1-2-2 株式会社 アビックス

©2022 Japanese Society of Food Chemistry